

2. 橘小学校の沿革

明治5年	8月	学制発布とともに松田良齊・東田庄三郎 両氏を師として、読・筆・算科を授く。
6年	11月	橘村落小学校が設置される。本明寺学舎で70名の児童が学ぶ。教育予算61円20銭
9年	8月	群英小学校と顕文小学校（上・下田子島、出合島、舟場島、校舎は三島四平氏の持ち家）に分かれる。この頃の就学率は約76%（顕文小学校資料）
10年	2月	巡回試験あり。参加父兄40名余り。本校の試験のはじめである。群英小学校は橘小学校に、顕文小学校は田子島小学校に改名。（出合島が校区より離れ、与九郎島が編入）
20年	4月	橘尋常小学校と田子島尋常小学校が合併して砂川尋常小学校となる。
30年	4月	合併では反対を押し切って2年生以上が田子島教場へ移る。冬の暖房には三尺角の大火鉢が使用される。この頃は子守がてらに通う児童が多く、就学率は約75%。
40年	3月	学校令改正で、三か年の義務制となる。
	8月	砂川村・草深村・中島村が合併して、川北村となる。
41年	4月	川北西尋常小学校と改名、上田子島・与九郎島は校区より離れ、現在の校区となる。
44年	4月	田子島尋常小学校と改名。 この頃より就学率が向上し99%を越す。理科の標本や体育器具も整えられる。
大正6年	4月	修正教科書が使用された。 以後、教授法研究会や研究授業が多く行われ、郡内でも自由教育時代となる。
11年	1月	初めて電灯が架設され、校内9か所に点灯する。
昭和4年	1月	以後、毎週火・金曜日に昼食時にメッタ汁を給与し始める。
	8年	1月 校舎の落成式を行う。地区割り当て寄付金総額245円60銭。
	9年	7月 手取川大洪水。罹災児童は死亡5名、行方不明1名。
同	11日	義援金総額245円60銭
	9月	水難児童の追悼式を行う。
16年	4月	橘国民学校と改名。 教科は国民科(4科目)・理科科(2科目)・体練科(2科目)・芸能科(4科目)となる。
20年	10月	敗戦後、占領軍の教育管理政策指令に基づいて、修身・国史・地理の授業を停止する。
22年	1月	校歌を制定。「作詞：畑本俊夫 作曲：大原善衛」
	4月	6・3・3・4制の教育形態に基づいて、橘小学校と改名（川北中学校分校を併設）。
33年	7月	P T A会報第1号が発刊される。
38年	11月	放送教育優秀実践校として、全国表彰される。
46年	9月	防音校舎第一期工事地鎮祭・起工式を行う。
48年	5月	新校舎竣工式を行う。
	12月	創立百周年の式典や各種工事を行う。
52年	10月	図工教育の研究会を催した。 テーマ「創造性をあたためる学習」（豊かな表現を目指す図工教育）
54年	3月	防音講堂兼体育館が落成する。
58年	8月	P T A活動優秀につき、県表彰を受ける。
	11月	P T A県指定研究の発表会を開催する。テーマ「地域ぐるみの情操教育」
62年	3月	ブラスバンドが結成される。
	11月	国語の研究校として研究発表大会を催す。テーマ「どの子にも学ぶ喜びを」
平成2年	8月	運動場にナイター設備が完成する。
	3年	7月 プール開設竣工式が行われ、駐車場も併設して完成する。
	10月	国民体育大会薙刀会場の開始式にてブラスバンド出演
	4年	8月 校舎大規模改修工事（外装）が完成する。
	12月	暖房設備の改修工事が完了する。
	5年	8月 校舎大規模改修工事（内装）が完成する。 校長室、職員室、保健室、図書室、体育館和室に冷房施設が完成。
	6年	11月 中国興城市より文化教育使節団（4名来校）
	7年	3月 前庭の整備完了（集落環境整備事業）校名石碑設置（題字 朝岡明美校長）
		9月 中国興城市より文化教育使節団（4名来校、内小学生2名）
	8年	4月 文部省、石川県教育委員会より3年間の「体力づくり推進校」に指定される。
		8月 児童玄関、職員玄関改修工事。音楽室に冷房設備、体育館に大型スクリーンを設置。
	9年	5月 運動場の築山を大きくする。
		6月 2年～6年各教室にパソコン1台設置する。
		8月 川北町教育文化訪中使節団が中国興城市訪問（山岡校長、小野島児童会長）
	10年	10月 「体力づくり推進校」研究発表会開催。テーマ「楽しみながら体力づくりに取り組む子どもの育成」～生涯を通して進める体力づくり～
	11年	5月 教育用パソコン22台を設置する。
	12年	10月 「体力づくり推進校」の功績により全国表彰を受ける。
	17年	11月 保育所増築工事により運動場の築山なくなる。
	20年	4月 県教育委員会より2年間の「活用力向上推進モデル校」に指定される。
		8月 校舎の耐震補強化事業工事が完成する。

